

第3学年1組 国語科学習指導案

1、単元名・教材名

まとまりをとらえて読み、かんそうを話そう「言葉で遊ぼう」「こまを楽しむ」

2、児童の実態と本単元の意図

本学級の児童はこれまでに説明文について学習し、その中でも文の「順序」に重点を置いて学習してきた。本単元では今までに学習してきた「順序」を更に発展させて、文の「まとまり」や「構成」を理解し、扱えるようになることをねらいとする。

本教材「言葉で遊ぼう」「こまを楽しむ」は、児童が興味を持ちやすい「言葉遊び」や「こま遊び」を説明した文章のため、児童が慣れ親しみながら読むことができると考える。

本単元を指導するにあたって、小学校学習指導要領の第3学年及び第4学年の「C読むこと」の指導事項「イ 目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと」を中心に指導を行っていく。そのために、前半の指導では段落や文のまとまりについて学習し、後半では「こまを楽しむ」という教材を扱い、「鬼ごっこ辞典をつくる」という言語活動を通して学習を進めていく。また、鬼ごっこ辞典を作った後には、友達の書いた辞典を読み、それに対する感想を伝え合う活動も行う。

本時では「どうすれば鬼ごっこについて詳しく説明することができるか考えよう。」という学習課題を立て、解決を図っていく。導入では、「こまを楽しむ」の「中」の段落が「どんなこまなのか、どんな楽しみ方ができるのか」という端的な答えの部分と、「こまの特徴的な作り方や、答えをさらに詳しく説明している」部分の二つで構成されていることを、本文に線を引いて確認する。次に、前の時間までに選んだ鬼ごっこ1種類についての説明文を書く。その際、説明文を書く前に見本を提示する事で説明文が書きやすいようにする。さらに、その書いた説明文を発表し、次時からの辞典を作っていくという学習に備えることができるようにする。

本教材「言葉で遊ぼう」「こまを楽しむ」の指導を通して、説明文における段落というまとまりや、文章構成を理解することができるように考えている。

3、単元の目標

(1)文章のまとまりに気を付けて読み、進んで鬼ごっこ辞典を書こうとしている。

(関心・意欲・態度)

(2)説明文における「はじめ」「中」「おわり」の文のまとまりを正確に捉え、段落の内容を理解することができる。

(読むこと)

(3)文章を読んで適切な言葉で辞典をつくることができる。

(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

4、単元の評価規準と学習活動に即した評価規準

	ア 国語への 関心・意欲・態度	ウ 読む能力	オ 言語についての 知識・理解・技能
単 元 の 評 価	・文章のまとまりに気を付けて読み、進んで鬼ごっこ辞典を書こうとしている。	・説明文における「はじめ」「中」「おわり」の文のまとまりを正確に捉え、段落の内容を理解している。	・文章を読んで適切な言葉で発表し合おうとしている。
学 習 活 動 に 即 した 評 価 規 準	①段落のまとまりに気を付けて、教科書本文を読もうとしている。 ②分かりやすい文章を書くために、選んだ鬼ごっこの特徴を挙げるができる。 ③どうやったら分かりやすい文章が書けるのかを、段落や構成に気をつけながら考えようとしている。 ④友達の書いた辞典を読み、説明されている鬼ごっこの楽しさを考えようとしている。	①「はじめ」「なか」「終わり」がどこかを捉えている。 ②それぞれの段落が何について説明しているのかを捉えている。 ③こまや言葉遊びのどんなところが楽しいかを捉えている。 ④「こまを楽しむ」の段落のつくりと同様のつくりで、鬼ごっこについての説明文を書いている。	①どのようにしたら感想が友達に伝わりやすいかを考えている。 ②感想を伝える際に適切な言葉を選んでいる。

5、指導と評価の計画（全10時間扱い） 本時6/10時間

時	主な学習活動	学習内容	評価規準、評価方法
1	○「言葉で遊ぼう」を音読し、段落、「はじめ」「中」「終わり」について既習事項を振り返る。	○「はじめ」「中」「おわり」の読み取り方	アの① ウの① ○机間指導による考察 ○発表の内容や態度の考察
2	○「問いと答え」とは何かを知る。	○文末への着目の仕方 ○それぞれの言葉遊びの楽しさの読み取り	ウの② ○机間指導による考察
3 ・ 4	○『こまを楽しむ』を読んで、前時までに学習した「はじめ」「中」「終わり」と「問いと答え」について理解を深めていく。	○2時間目までの既習事項を基にした説明文への理解の深め方 ○各段落の内容の読み取り	ウの② ウの③ ○発表の内容や態度の考察

5	○どの鬼ごっこについての辞典を書くのかを選び、選んだ鬼ごっこの特徴を箇条書きでノートにまとめる。	○説明文を書くための材料を集める方法	アの② ○ノートによる考察
⑥	○「こまを楽しむ」の文章が大きく2つの部分から成り立っていることを学習し、そのつくりに合わせて説明文を書く。	○説明文を自分で書く方法	ウの④ ○ノートによる考察 ○ワークシートによる考察
7・8	○「言葉で遊ぼう」「こまを楽しむ」を読んで学んだことを生かして、鬼ごっこ辞典を作成する。	○説明文を自分で書く方法	アの③ ウの⑤ ○作成した鬼ごっこ辞典による考察
9・10	○遊び辞典を読んだ感想を伝え合う。	○友達への感想の伝え方	アの④ オの① オの② ○感想による考察 ○発表の内容や態度の考察

6、本時の学習指導（本時 6 / 1 0 時）

(1)目標

○「こまを楽しむ」の段落のつくりを読み取ることができる。

(2)評価規準

ウ 読む能力
④「こまを楽しむ」の段落のつくりと同様のつくりで、鬼ごっこについての説明文を書いている。

(3)展開

前時の学習内容	○説明文を書くための材料を集める方法
---------	--------------------

学習活動	学習内容	指導と評価の創意工夫	時間
1、本時の目標の確認をする。 どうすれば鬼ごっこについて分かりやすく説明することができるか考えよう。	・本時の学習課題	○全員で音読することで、目標の共有をできるようにする。	3 分
2、「こまを楽しむ」の段落がどのようなつくりになっているかを確認する。	・本文中の段落のつくり ・各段落が同じようなつくりになっていること	○「こまを楽しむ」の「中」の各段落のつくりが「どんなこまなのか、どんな楽しみ方ができるのか」「こまの特徴的な作り方などの補足説明」の2つの部分に分けられるということを本文に線を引いて確認することで、鬼ごっこ辞典を作る際に分かりやすい説明文を書きやすいようにする。 ○2段落と3段落の「どんなこまなのか」の部分が似たような作りになっていることを先に例として示すことで、活動を進めやすいようにする。	15 分
3、選んだ鬼ごっこの内の一種類について説明文をノートに書く。 <出させたい内容> ・氷おには、仲間が助けてくれることをドキドキしながら待つことを楽しむ鬼ごっこです。鬼にタッチされると、氷になってしまい、誰かが助けに来てタッチしてくれるまで動けません。鬼にばれないように助けを呼んだり、せっかく氷にした人を助けられてしまわないように作戦を考えたりして楽し	・説明文の書き方	○「こまを楽しむ」の段落（特に②段落や⑤段落）の作りと同様に「どのような鬼ごっこか、どんな楽しみ方ができるのか」「鬼ごっこの補足説明」の2つの部分に分けて文章を書くようにすることで、説明文を書きやすくし、段落のつくりについての理解も深めることができる。	15 分
		ウの④「こまを楽しむ」の段落のつくりと同様のつくりで、鬼ごっこについての説明文を書いている。 （ノートによる考察） 出させたい内容のように、2つの部分に分けて鬼ごっこについての説明文をノートに記述できていれば、「おおむね満足できる状況である」と判断することができる。 《手立て》 ・2つの部分に分けて説明文を書くことができていた児童には、②、⑤段落以外の段落のつくりにも着目したり、自分の体験談を入れたりするように助言をする。	

みます。 4、書いた説明文を発表する。 5、まとめ	・説明文を書くことにつまずいている様子の児童には、空欄を埋める形のヒントカードを渡す、また、教科書と自分の書いた文章を見比べることで、説明文の書き方の理解がしやすいようにする。 ○友達がどんな説明文を書いているかを知ること、次回からどのようにして文章を書いていけば良いのかを考えることができるようにする。 ○本時の授業のまとめと、次回は鬼ごっこ辞典を作り出すことを伝える。	10分 2分
--	---	----------------------

7、備考 在籍児童数 35名